

シェル・シルヴァスタイン作「ライオンのラフカディオ」から

咲良舎企画「ラフカディオと遊ぼう」

「ライオンのラフカディオ」は、「おおきな木」（あすなろ書房）や「ぼくを探しに」（講談社）などでよく知られるシェル・シルヴァスタインの初期の作品です。谷川俊太郎さんのあとがきで、1987年、佑学舎より出版されました。翻訳はわじまさくら。守輪咲良のもうひとつのペンネームです。

ユーモアとナンセンスにあふれ、シルヴァスタインのイラストと軽快な語りではじまる絵本「ライオンのラフカディオ」を台本にして、みんなで遊ぼう！ Play is Play！

あなたは・・・ホテルマン？ あなたは・・・仕立て屋？ そしてあなたは・・・？

絵本作家であり、落語家でもある絵書家筆之輔さんがラフカディオです！

そしてそこにいる皆さんが参加者です。あなたはどの役がいい？

さあ、ラフカディオと遊ぼう！筆之輔さんと遊ぼう！

日時：5月5日（月・祝） 13:30 集合

会場：かたびら・スペース・しばた。（JR 保土ヶ谷駅西口徒歩3分）

予約・問い合わせ：[かたびら・スペース・しばた 公式サイト](#)

参加費：無料（写真の絵本は図書館で見つけられます）

参加資格：どなたでも。演技未経験者、大歓迎。高齢者、大歓迎。

子ども、大歓迎。（人数がそろい次第締め切ります）

演出・指導：守輪咲良



あらすじ：

シェルビーおじさんが語る、むかし出会った変テコなライオンの話——

ジャングルで、のどかに昼寝をしていたライオンたち。ズドンというハンターたちの鉄砲の音でみんな走りだした。1匹だけ走らないライオンがいて・・・、これがお話の主人公ラフカディオ。ハンターたちが置いていった鉄砲をあれこれやっているうちに射撃の名人になってしまった。そこへサーカスの団長がスカウトにやってきて・・・。こうして無名のジャングルのガンマンはサーカスの大スター・ラフカディオになり、たちまち世界一のガンマンへ。金持ちで、有名で、幸せなライオンは世界的に知られるようになり、ジャングルのライオンはどんどん人間らしくなっていった。流行の最先端をいく、誰もが憧れる、幸せで、金持ちで、有名で・・・。

ある日のこと、ラフカディオからシェルビーおじさんに電話がかかってきて「すぐ来て欲しい！」という。おじさんが金ぴかの家に行ってみるとラフカディオは泣き出した。

さあ、いったいラフカディオに何が起こったの・・・？（守輪記）